

- 最初の住民説明会。これから始まるという思いで臨んだが、住民説明会には建替推進反対の人達がいる事を当時の私達は知らない程、団地の事に関しては無知であった。

A社の挨拶、NEXTの挨拶が終わると、すかさずK氏が立ち上がり建替推進委員会の進め方に対しての反対論を長々と喋りだした。K氏は元々中学校の英語の教師という事もあって、話が長い。反対論の最後に「私は理事会が選定した（実は住民投票）A社に納得できない。まして、NEXTという名は今日初めてである。A社はともかくNEXTはこの説明会の会場から出ていくべきだ……。」

このK氏の発言は15年程経っても今でも鮮明な記憶がある。（K氏はおそらく忘れていたであろうが。）その後、K氏は国領住宅の建替えに最後まで反対を続けたが、最後の最後に賛成に転じた。（その経緯は省略。）

賛成に転じたK氏は自分の最も気に入ったタイプの住戸（南棟低層階）を選定した。竣工後、新しい国領住宅を訪ねた折、K氏が家族と共に新しい集合住宅の中を歩いている姿が見えた。とても穏やかな老人の顔に変わっていた。



国領住宅建替計画 エントランスH インフォर्मーションロビー外観

- そのK氏が調布富士見町住宅の理事会の元役員と親交があり、国領住宅と同じく都計法11条「一団地の住宅施設」の規制がある調布富士見町住宅を「この団地も都計法11条があっても建替えが出来るし、建替えをすべきだよ。建替えた住宅は国領住宅のように素晴らしい建物に生まれ変わる。これを実現出来るのはA社とNEXT以外ない。」とってくれたのを、私は調布富士見町住宅の元役員から聞いた。調布富士見町住宅の人達は、国領住宅竣工後の姿を見に行き、私達も建替えようと決意を改にした。そしてその有志の人達がA社とNEXTを勉強会に招いてくれたのである。

私はそれまでK氏と一度も言葉を交わした事はない。しかし、最後まで反対していたK氏が私共の仕事を通じて信頼し、他の団地の役員に話してくれた事に感動を覚える。



国領住宅建替計画 ウェストコート